

小学校社会科における、屏風絵を用いた調べ学習の実践

佐倉市立上志津小学校 下峠 圭弘

1. 実施学年および教科・領域

小学校第6学年 社会科

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 今に伝わる室町文化

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

本単元は学習指導要領解説社会編第6学年の内容(1)「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。」の(エ)「京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことが分かること。」に関連して設定した。

②単元の目標

<社会的事象への関心・意欲・態度>

- ・京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画、芸能などと、それらにかかわる人物の働きに関心をもち、進んで調べようとすることができる。

<社会的な思考・判断・表現>

- ・京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画、芸能などと、それらにかかわる人物の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現できる。
- ・書院造や水墨画、能・狂言、生活習慣などについて調べたことを比較したり、関連づけたり総合したりして、人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考え、言語などで適切に表現できる。

<観察・資料活用の技能>

- ・文化財や地図、年表、その他の資料を活用して、京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画、芸能などと、それらにかかわる人物の働きについて必要な情報を集め、読み取ることができる。
- ・調べたことを年表や作品、ノートなどにまとめることができる。

<社会的事象についての知識・理解>

- ・今日の生活文化に直結する要素をもつ室町文化が武士や民衆の中から生まれ、今も多くの人々に親しまれていることを理解することができる。

(3) 博物館との関連

①活用方法 ○「非来館型活用」・・・貸出資料を使用して学校での授業実践。

○「来館型活用」・・・館内の見学および資料作成を行う場所の提供。

②活用資料

○洛中洛外図屏風(歴博甲本)床置きパネル・第2展示室の展示物全般

(4) 指導観

本学級の児童は4年生の社会科の学習で歴博を訪れており、多くの児童が6年生での見学をととても楽しみにしている。歴史学習に対しても興味関心が高く、毎回の授業に積極的に取り組む姿勢が見られる。本校は学校から歴博まで電車で2駅、およそ1時間の移動となる。同じ市内にあるため、時間が許せば複数回の見学を行い、歴博をできる限り活用したいと考えている。近くにあることの利点を生かし、見学の予定を他の施設との抱き合わせにするのではなく、じっくり1日過ごすことで、児童の興味関心に合わせた調べ学習を行わせたい。

実際の見学に先立ち、歴博の貸し出し教材をお借りし、室町時代の街並みを間近で見せることで、児童の興味関心を高めるとともに、学習問題を設定することで、見学の効果をさらに高めたい。まず貸し出し用の屏風絵を学級で広げ、子どもたちに自由に観察させ、気づいたことを書かせていく。それらを発表させる中で、調べ学習のテーマを絞らせていく。予想される児童のテーマとしては、①人々の生活の様子（職業なども含む）②建物の様子③文化（祭りなど）の3つが考えられる。あらかじめテーマを絞っておくことで、現地での調べ学習を効率的に進められるであろう。

歴博見学当日にはまず全体を見学させたのち、主な活動場所を第2展示室に絞ることとする。短時間で全体を見て終わらせてしまっただけでは、歴史の大まかな流れをつかむためには効果的であっても、内容に深まりが出ないであろう。

テーマにそってある程度調べ学習が進んだ時点で、調べたことを歴博内のガイダンスルームでまとめさせていき、時間があれば簡単な発表も行わせたい。まとめの作業を歴博内で行うことで、まとめていて分からなくなってしまう点や、さらに詳しく調べてみたい点をすぐに解決することができるため、作業にも意欲的に取り組めるのではないかと考える。また、児童個人の習熟度に配慮し、調べる内容が難しくなりすぎないようにすること、発表資料が細かくなりすぎないように配慮するとともに、だれもが達成感を味わえるようにする。

3. 指導計画（5時間扱い）

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
展開一 (教室) 見出す	45	<p>○既習事項を振り返るとともに、各種資料から室町時代の文化への興味関心を高める。</p> <p>○洛中洛外図屏風を見て気付いたことやさらに調べたいことをできる限り書く。</p> <p>○全員の調べたいことをKJ法でグループ分けしつつ、個人のテーマを絞る。</p>	<p>□観察の時間をじっくり取り、学習への意欲を高める。</p> <p>□手本を示し、どの児童も取り掛かりやすくなるよう配慮する。</p> <p>□貸し出し用洛中洛外図屏風を見る際には、上に乗ってもよいが、資料の上で直接ワークシートを書かないようにさせる。</p> <p>■室町時代の街並みや人々の様子、代表的な建造物等に関心をもち、進んで調べようとしているか。</p> <p><行動観察、ワークシート、関></p>

		<p>○学習問題を設定する。</p> <p>㊦ 室町時代の文化は、 どのようなものだっただろうか。</p>	<p>■室町時代の街並みや人々の様子、代表的な建造物等と、それらに関わる人物の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現しているか。</p> <p>＜ワークシート、思＞</p>								
事前指導 (教室)	25	○ビデオやパンフレットをもとに、歴博の利用の注意点や日程、学習のめあての確認をする。	□内容を可視化して、見通しを持って活動に取り組めるよう配慮する。								
展開二 (歴博) 調べる	45	<p>○およそ同じテーマの児童でグループを作り、課題に関する展示資料をもとに調べ学習を行い、自分たちなりの解決を見出す。</p> <p>＜予想される児童の活動＞</p> <p>①人々の生活の様子 ②建物の様子 ③文化（祭りなど）</p>	<p>□グループで行動していても、一人一テーマで調べ学習を行わせる。</p> <p>□必要に応じて写真を撮ったり、絵を描かせたりする。</p> <p>□必要に応じて展示室のスタッフにアドバイスを求め、適切な資料を活用できるように支援する。</p> <p>■各種資料を活用して、室町時代の街並みや人々の様子、代表的な建造物等と、それらにかかわる人物の働きについて必要な情報を集め、読み取ることができているか。</p> <p>＜ワークシート、技＞</p>								
展開三 (歴博) 深める・まとめる	45	<p>○マニュアルをもとに発表資料を作り、グループで模造紙半分程度にまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">江戸時代の人々の楽しみについて</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: middle;">  </td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> テーマ 絵・写真 </td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">まとめ</td> </tr> </table> </div>			テーマ 絵・写真		説明		まとめ		<p>□各自がテーマごとに A4 用紙一枚程度の資料を作り、互いに確認しながら一枚の発表資料を作る。</p> <p>□写真・イラストを効果的に使い、文だけにならないよう指導する。</p> <p>□練習しながら、テーマとずれていないか、わかりやすい説明になっているか確認するよう助言する。</p> <p>■調べたことをもとに、情報を整理し、年表や作品、ノートなどにまとめることができているか。</p> <p>＜作品、技＞</p> <p>■調べたことを比較・関連・総合し、人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考え、言語などで適切に表現しているか。</p> <p>＜作品、原稿、思＞</p>
											
テーマ 絵・写真											
説明											
まとめ											

展開四（歴博・教室） まとめる	20 <ul style="list-style-type: none"> ○互いの発表を聞いて、児童相互により点を認め合い、アドバイスを言い合う。 （例）・時代ごとの比較があつてわかりやすかった。（まとめ方） ○振り返りをする。 （例）・洛中洛外図屏風を借りられたので、いつもより興味がわきました。 ・歴博でまとめたことですぐに調べられてよかったです。 ・洛中洛外図屏風にも今につながる文化があつて驚きました。 	<ul style="list-style-type: none"> □振り返りでは、歴博での活動や貸し出し教材のことに触れるよう助言する。 □相互評価では発表の仕方に偏らないようにし、資料の活用の仕方やまとめ方、内容について評価できるようにする。 ■今日の生活文化に直結する要素をもつ室町文化が生まれ、今も多くの人々に親しまれていることを理解しているか。 <p style="text-align: right;">＜作品、振り返り、知＞</p>
--------------------	--	---

4. 実践の概要

（1）洛中洛外図屏風を見てみよう。

歴史民俗博物館に見学に行く前に、教室でテーマを絞っていくことが、時間の有効な活用のためにも欠かせないを考える。そこで歴史民俗博物館の貸出教材である、洛中洛外図屏風の床置きパネルをお借りした。子どもたちと洛中洛外図屏風の出会いは驚きの連続だったようで、まずはその大きさと、まるで当時の町に足を踏み入れてしまったような、リアルな情景にしばらく興奮していた。

実際の作業としては、初めに自由に観察する時間をとった。その後気付いたことをできる限り沢山書き出すように指示した。その際には現在と似ているところと、違うところがないか考えながら取り組むように助言した。10分間という短い時間で全員が10以上の項目を書くことができた。



＜1組は比較的スペースがとりやすい図書室で、右隻と左隻をそれぞれ向かい合うようにして並べ、季節を追いながらか見ていくことができるようにした。（平成22・23年度博学連携研究員神山知徳氏の実践を参照）＞



< 3組は教室で机を移動したうえで、グループごとに数枚の屏風絵をあてがい、その部分を詳しく観察するようにした。 >

調べる時間を終わらせたのち、1人ひとつずつ気付いたことを発表させていった。発表後に児童から出されたキーワードを集約していくと、「仕事」「建物」「生活」の3つにまとめることができた。まとめた後で、上記の3つの中から1つを選び、歴博の見学で詳しく調べることを伝え、各自の課題設定を行った。

(2) 戦国時代の人々の様子について、各自の課題ごとの調べ学習をしよう。

いよいよ校外学習当日である。まず初めにガイダンスを受けてから、個人で見学し、各自の課題を解決することをめあてにした。見学の際には自分たちのテーマに関する展示がどのあたりにあるのか伝え、資料探しで迷わないよう配慮した。

洛中洛外図屏風に田んぼの中の農民の姿が描かれていたけれど、当時の農業は今と比べてどのようなものだったのかな。

洛中洛外図屏風 右隻第3扇上部
鴨川沿いの田圃の農民



洛中洛外図屏風に大工さんの姿が描かれていたけれど、当時は機械もないし、どのように作業をしていたのかな。

洛中洛外図屏風 右隻第2扇中部
建設現場の番匠



仕事以外の課題を選んだ児童は、有名なお寺などの建物、生活の一部としてのお祭りについて興味を持った者もあり、それぞれが各自のテーマ別調べ学習に取り組んだ。

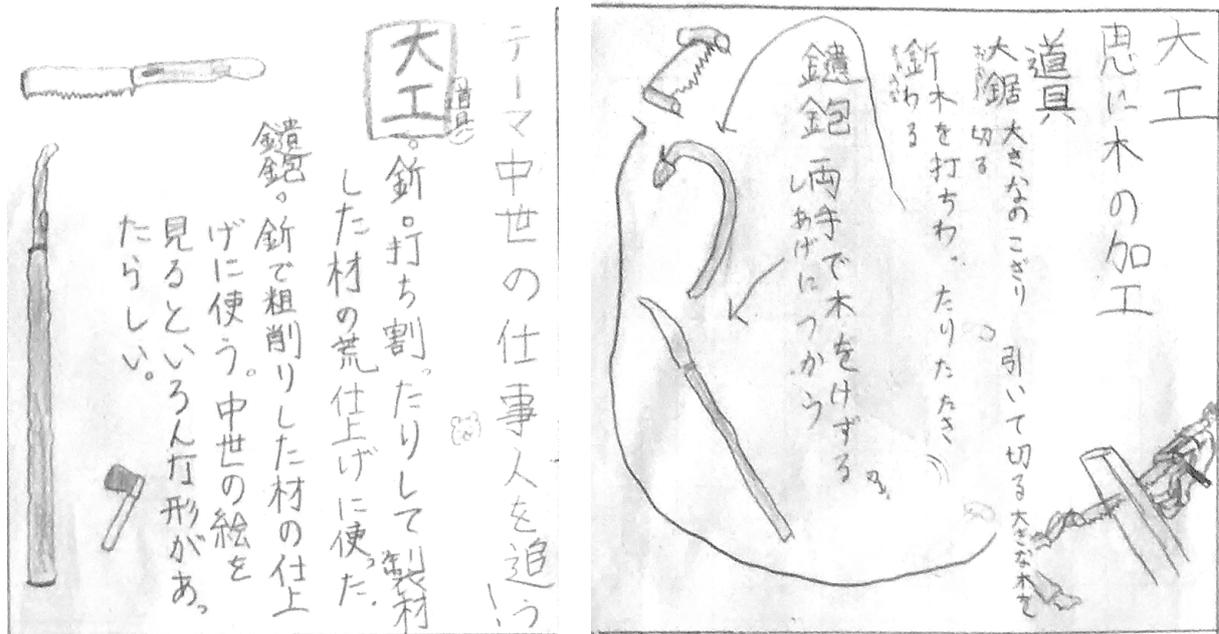
(3) 調べたことを発表資料にまとめよう。

午前中に展示物を見学してわかったことや気づいたことをもとに、ガイダンスルームを使って発表資料作りを行った。まとめている途中で新たに出てきた疑問点や、不十分な点を補うために時間が許す限り何度でも展示室に戻り、調べてよいことにした。



<ガイダンスルームで意欲的にまとめに取り組む児童の様子>

事前にしっかりとテーマを絞ることができていた児童にとっては、自分のテーマにあった資料をまとめることができたし、さらなる疑問を深めることができ、大変有意義な時間となった。その一方でテーマを決めかねていた児童にとっては、テーマ決定までの時間が有効に使われず、残念であった。

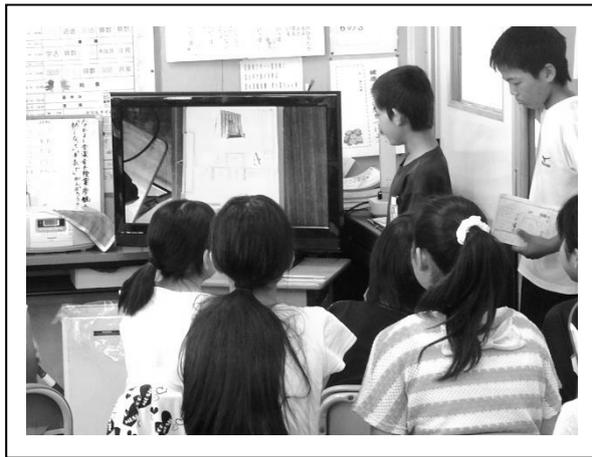


＜児童が作成した発表資料＞

発表用資料は A4 の紙にテーマと説明が書かれており、イラストを見てもとても細かくスケッチをしていることがよくわかる。その一方で、左上の児童のようにテーマ設定が「中世の仕事人」といったまだ広い内容であり、さらに狭い範囲に絞ったうえで取り組ませたほうが広がりがあったと考える。

(4) 資料をもとに発表会をしよう。

発表会は授業参観に合わせて、学級の児童だけではなく、保護者にも見ていただくようにした。場の設定は屋台村形式とし、時間いっぱい何度も発表をするとともに、興味のある友達の発表を自由に聞きに行くことができるようにした。



＜発表会での児童の様子＞

じっくり調べ学習に取り組んだ結果、堂々と発表できている児童が多かった。発表後の質問タイムでも、発表の仕方だけではなく、内容についての質問も多く出され、発表者だけでなく聞いている児童の理解も深まったと考える。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・あらかじめ貸出教材の洛中洛外図屏風を調べてからの来館だったことで、調べるテーマが決まっている児童が多く、テーマを意識しながら見学することができ、児童の調べ学習の効率が高まり、理解が深まった。歴博から手軽に借りられる貸し出し教材はこれからもぜひ活用したいし、多くの学校に広がることを期待する。
- ・歴博に展示されている洛中洛外図屏風だけを見てもテーマが浮かばない児童にとっても、あらかじめ展示物と触れていることで、歴博の展示物を見た時に洛中洛外図屏風とのつながりを意識することができ、調べ学習の効率や、意欲が高まった。
- ・館内でまとめをすることができ、児童が必要に応じて何度でも調べ学習に行ける取り組みは児童にとって有意義であったと考える。ただ何となく通り過ぎて学校で振り返るのではなく、その時の「もっと調べたい」とか「ここはどうなっていたのかな」といったさらなる疑問の答えを出せるのはよかった。
- ・屏風絵を使用しての学習効果がとても高かったと考える。屏風絵の貸し出し教材には他の種類もあるので、一度だけではなく計画的に他の種類も活用していくことで、調べ学習の仕方や理解が深まっていくであろう。次回は洛中洛外図屏風から江戸図屏風への流れで活用していきたい。また、他の屏風絵のさらなる貸出教材化も歴博には検討していただきたい。
- ・今回の学習では、短期間で調べ学習からまとめまで行ったが、児童にとっては意欲が持続するとともに、いつもと違った環境で作業し、それなりに良い内容ができたようで、達成感があつたようである。いつものように見学後に日を空けて改めてまとめを行うよりも、現地での作業の方が効果的であると考えます。

(2) 課題

- ・今回は2学級で別々の方法で貸し出し教材の洛中洛外図屏風を見たが、どのような方法での調べ学習がいいのか、その場に応じたより効率的なものの検討を今後も続けていきたい。
- ・児童にとってテーマ設定をすることがなかなか難しく、「仕事」「建物」「生活」と大まかに分けてみたものの、さらに踏み込んだテーマ設定ができればより具体的な理解につながると考えた。
- ・当初は歴博の中で発表まで行おうと思っていたが、全員の発表資料がまとまらず、時間的に実践できなかった。
- ・折に触れて教科書や資料集の内容との関連を図ろうとしたものの、なかなかうまくいかず、教科書の内容については後日おさらいをしなければならなくなってしまった。歴博の展示が生活史に重点をおいた構成であるので、いかに教科書記載の人物と関わらせて学習させていくか、今後検討を続けていきたい。

※児童に配布した
ワークシート。
まとめ方のヒント。

室町時代の大工さんは
どのような仕事をしていたのだろう？

(1) テーマを決めよう！
・室町時代には、どのような、
仕事があったのか。
→大工、〇〇屋
・室町時代には、どのような、
建物があったのか。→寺、城
・なぜ～だろうか？
※ぐたいてきな内容にしぼろ
う。

① 調べようと思ったきっかけ。

機械がない時代にどうやって大きな建物を作っていたのか気になったので調べてみまし
た。

② 調べてみてわかったこと。

- ・いろいろな道具を使って協力して仕事をして
- ・とてもダイナミックな方法で大きな木を切ってい

(2) 展示室で調べたことを
しょうかいしよう！
① 調べようと思ったきっかけ。
② 調べてみてわかったこと。
③ 調べた感想や考えたこと。



イラストや写真
(館内で配られる
資料のキリバリ)を
上手に活用しよ
う！

※この切り方は〇〇から伝わってきたそうです。

③ まとめ(調べたかんそうや考えたこと。)

室町時代には機械がないけれど、たくさんの工夫や協力をして、大きな家を作っていて、
危険だし、大変そうだと思います。大工だけではなく、当時の人々も、その時代に合っ
たやり方で、上手にくらしていたことが分かりました。

今まで学習した時
代や自分たちとの生
活と比べてみると書
きやすいです。